

# 健康と光線

## 間欠性跛行とは

間欠性（間歇性）跛行（かんけつせいはこう）とは、数分から10分程度歩くと、足に痛み、しびれ、脱力などが出て歩けなくなり歩けませんが、しばらく休むと再び歩けるようになる症状を繰り返すことです。原因疾患に、狭くなった脊柱管の中を通る神経と血管が圧迫される腰部脊柱管狭窄症と足の動脈の血流障害を起す末梢動脈疾患があります。

## 腰部脊柱管狭窄症

腰部の脊柱管の中には、第1～2腰椎で終わる脊髄、その下の神経の束が馬の尾のようになる馬尾神経、血管があります。腰部脊柱管狭窄症の間欠性跛行は、狭くなった腰部の脊柱管の中を通る神経と血管が圧迫されて起こすので、圧迫が増す腰を反る姿勢、腰が伸びた姿勢で起き易いのに対し、圧迫が緩む自転車に乗る、

カートを押すような前かがみの姿勢だと起きにくくなります。なお狭窄の原因として、本症が高齢者に多く腰痛を伴うことから、脊柱の加齢による変形（変形性腰椎症）が挙げられていますが、先天性や椎間板ヘルニアや腰椎分離すべり症や外傷など若年層にもあります。

## 末梢動脈疾患

間欠性跛行を起す末梢動脈疾患は、閉塞性動脈硬化症とパージャール病（閉塞性血栓性血管炎）です。いずれも足の動脈が細くなり、歩行のようない負担に応じず血流を増やせない虚血状態が原因で間欠性跛行を起します。男性に圧倒的に多く、腰痛は伴いません。

## 間欠性跛行のサナモア光線療法

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

発行所  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京（03）  
3793-5281  
3712-5322

閉塞性動脈硬化症は全身の動脈硬化の一環として足の血管の動脈硬化が原因で血流障害を起しますが、病期を1度から4度に分けるフォンテイン分類があります。1度は軽症で足のしびれや

過は閉塞性動脈硬化症に準じますが、動脈硬化症によるものが中高年の男性に多いのに対し、本症は20才～40才の若い喫煙男性に多く、非喫煙者にはありません。そのため病状の進行を防いで予後を改善したいなら、絶対に禁煙しなければなりません。

## 間欠性跛行のサナモア光線療法

腰部脊柱管狭窄症に伴う間欠性跛行の保存療法として、日常生活で神経・血管を圧迫する姿勢や動作を避けるようにした上で、薬物療法や理学療法が行われますが、理学療法の中の赤外線療法を含む温熱療法が、狭窄自体は治

さないのに卓効を奏することがあるため、間欠性跛行は神経の圧迫より神経周囲の血管の圧迫による血流障害が原因の可能性が指摘されています。ところでサナモア光線療法の場合、全身照射に併せて特に腰部に重点的に時間は長めに（30～60分程度）

照射しますが、赤外線は深部温熱作用で芯から温め、周辺の筋肉の凝りをほぐし、血流障害を改善しますので、明らかな効果を認めます。自験例に100～200mしか歩けなかった人が普通に歩けるようになったケースがあります。

末梢動脈疾患の間欠性跛行の保存療法の目標は、血管を広げて血流量を増やし、血流障害を改善することですので、注意事項として禁煙が重視されています。サナモア光線療法は、足裏、ふくらはぎ、膝前後、腰などに照射しますが、治療を継続することでパイパスになる側副血行路の発達を助けますから、一過性の効果でなく長続きします。実際、糖尿病による閉塞性動脈硬化症で足先に生じた壊疽が治癒したケースを経験しています。

間欠性跛行を起す病気の治療で留意すべきことは、初期症状の間欠性跛行の状態から重症化させないことです。重症化すると手術療法でも改善しにくくなりますので、重症化を防ぐためサナモア光線療法を治療に取り入れて下さい。すべり間欠性跛行の原因の血流障害を改善するので病状の重症化を抑え、引いては生活の質の向上に寄与します。



# 一病息災 一病息災

## パーキンソン病

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

### はじめに

パーキンソン病は、高齢化社会の進展により、増加傾向にある疾患で、難病の一つに挙げられますが、日常生活に支障をきたす様々な症状が見られ、重症化すると、立つことも困難となり、ベッド上での生活を余儀なくされます。初めて報告した英国人医師、ジェームス・パーキンソンの著書の中では、「振戦麻痺」と表現されていますが、これは、まさに、パーキンソン病を一言で言い表しています。読んで字のごとく「振戦」とはふるえを、「麻痺」とは運動障害を意味しますが、体がふるえ思ったように動かせないといった症状が、パーキンソン病の本質的な病態だからです。

### パーキンソン病の

### 症状と原因

パーキンソン病は、「振戦」、「筋固縮」、「無動・寡動かさず」、「姿勢反射障害」が、四つの大きな症状となります。ふるえを表す振戦は、最初、片方の上肢に認めることが多く、その後、

同側の下肢、反対側の上肢、下肢に進むことが一般的です。特に手指に起きる振戦は、親指と人差し指で、丸薬を丸めるような動きを呈することから、「ピル・ローリング」と呼ばれています。

筋固縮は、筋肉が固くなり、リラックスできない状態で、他者が、肘の関節を他動的に動かそうとすると、まるで鉛の管を曲げているような抵抗を感じます。この筋固縮は、主に、四肢や頸部で認められます。

また、動作が緩慢となって俊敏に動けず、のろのろと時間がかかるようになることを、無動・寡動と言います。このため、まばたきが減って、顔の表情が乏しくなることがあり、「仮面様顔貌」と表されます。

さらに、身体が傾いた時に、元通りに戻し、バランスを保つことができなくなる姿勢反射障害が加わり、病状を形成しますが、これらの症状以外に、自律神経症状や認知症などの精神症状が出現することがあります。

このような症状を引き起こす

原因は、現在、脳内におけるドパミン欠乏であることが分かっています。私たちは、日常生活において、特に何も意識することなく活動していますが、この動きを制御しているのが、脳にある線条体と呼ばれる部位で、そこでのドパミンとアセチルコリンという神経伝達物質のバランスが重要となります。このうち、ドパミンは、脳幹部の黒質という部位から線条体に供給されているのですが、パーキンソン病は、この黒質の細胞の異常により、ドパミンが不足することにより発症します。

### パーキンソン病と

### パーキンソン症候群

先にパーキンソン病の原因について触れましたが、この黒質から線条体にかけての動きは、脳梗塞や脳炎など、他の原因によっても障害されることがあり、この際には、パーキンソン病と類似した症状を呈することが知られています。そこで、明らかな原因、基礎疾患があつて、パーキンソン症状を呈する場合をパーキンソン症候群と呼び、

パーキンソン病とは区別して考えられるのです。

大まかな両者の違いはと言うと、パーキンソン病の発症年齢は、50〜60歳代と低く、初発症状に振戦が多く、認知症は少ない点などが挙げられます。

### パーキンソン病と

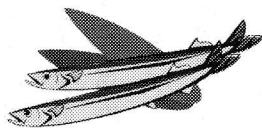
### 光線療法

パーキンソン病においては、きちんとした診断から、適切な薬物療法を受ける必要がありますが、リハビリを含めた普段の日常生活が非常に大切です。また、進行性の病気で、徐々に運動系の問題が増えることに加え、うつ状態など、精神症状が問題となることも多く、周囲の人の理解が不可欠です。

これまでのパーキンソン病に対するサナモアの使用経験から、症状の進行に対して、一定の効果があることが分かっています。さらには、サナモアを照射することによって、全身状態の改善につながり、積極的なリハビリに結びつけることも重要と考えます。



## サ/ナ/モ/ア/便/り



vol.51 宇都宮 正範

第十七期  
サナモア光線治療師  
養成講座を東京にて開講

今年度も、第十七期サナモア光線治療師養成講座を、六月二十八日から三日間の日程で、開講することができました。講義は、参加された方々の熱気に包まれながらも、和気あいあいとした雰囲気ですすみ、最終日に

は、世代を超えて、皆様親しくされている様子でした。

今回、治療師認定を受けられた方々をご紹介します。(写真)



## ◆ 治療師認定者 ◆

及川 永子(岩手県)、小平 フサ子(青森県)、是川 祐子(青森県)、湊 玲玲(兵庫県)、坂本 美果(東京都)、三浦 久子(東京都)。敬称略

## 第三十七回

「光と熱研究会」  
のお知らせ

医療に関連した話題の講演や

治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般

の愛用者の方も是非参加下さい。なお参加は無料です。

日時：十月二十七日(土)

午後二時三〇分

場所：サナモア光線治療院  
三階会議室

## 治療院&amp;治療師紹介

今回は先に行われたサナモア光線治療師養成講座に出席し、治療師資格を取得された方から頂いたお手紙を掲載致します。

## 湊 玲玲(治療師(兵庫県))

この度、私は、治療師養成講座を受講し、多くのことを学びましたが、以下の三点を心に刻みました。一つ目は、光線療法が、病院医療と競合するものでなく、補完しあう治療法であること、二つ目は、光線療法には、自身のもつ自然治癒力を高める効果があること、そして、三つ目は、可視光線の一部に、遺伝子に起きた障害を修復する作用があることです。

また、これまで、サナモアを

浴びると、病気の苦痛が軽減するだけでなく、不安感までもが和らぐことを、いつも不思議に感じていましたが、それも、自

きた障害を修復することによって、傷ついた遺伝子が原因で発病することを、光線療法が未然に防ぐのだという事実は、非常に興味深かったです。

身の自然治癒力の表れであると理解できました。そして、サナモアを続けることが、病気に負けない気持ちを生み、病氣と付き合い、一日一日を大切にしようといった前向きな気持ちに繋がるのではないだろうか、そう

講座を受けることによって、医学についても、少し知識を得ることができ、サナモアの作用と効果を、多面的に学ぶことができました。これまで、漠然とサナモアは良いと思っていましたが、今後は自信を持って、不安を抱えながらも病氣と闘っている多くの方々に寄り添い、力になればと思います。

## ◆ 募 集 ◆

## サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720



## 治験例報告

## サナモアで

## 急性腎炎による症状が軽快

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL 〇七八一三三二二三五八

症例 42歳 男性 会社員

症状 夏の終わりにひいた風邪が長引き、いつもなら、足裏にサナモアを照射すると治るのに改善せず、足のむくみも認めただけ、近医を受診。そこで、血液検査、尿検査等を受けたところ、急性腎炎を併発しており、入院加療を勧められたが、仕事が忙しく、今は入院できないと話し帰宅。病院からの帰路、ウエノ光線を訪ね、今日から早速サナモアを始めたいと言って、サナモアの照射方法を質問された。

療法経過 治療はBDカーボンで、最初に、腰部30分、腹部(臍中心)30分、背部20分、前頸部30分を照射。その後、ABカー

## 治験例報告

## 舌癌の術前術後を

## サナモアで治療

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL 〇四四七三二五〇六七

症例 58歳 会社員

症状 平成23年8月上旬、全身倦怠、体調不良を自覚し、仕事に手につかない状態となったため、病院を受診したところ、精密検査の結果、舌癌を指摘され、

治療を開始してから一週間後には、尿の流出がよくなり、気になっていた足のむくみも目立たなくなったとのこと。さらに、10か月後に、検査の結果が出たと来所したが、尿検査で、タンパク尿、血尿ともに認めず、血圧も正常化し、下肢のむくみも認めず、すこぶる体調は良好で、今後もこの状態を維持するようサナモアを友として、いきますと話している。

## 全自動光線治療器

はつらつさんと  
ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてききました。この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、カーボンの消耗に合わせてジョイントでさるサナモアカーボンをつないでいけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

\*

なお、はつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

療法経過 治療は四台の治療器

で、BDカーボンを使用。側臥位にて、顔面と腰部と膝に15分照射。次は、後頭部と腹部と足裏に15分照射。さらに、仰臥位として、前頸部(甲状腺を左右から60分照射1号集光器)。左右側腹部と左右膝に30分照射した。

8月9日から始めて、20日ま

での連日、当院で治療を行うとともに、自宅にても、毎日、4時間の照射を行い、手術を受けた。術後の経過は非常に良好で、当院でも、術後、数回の治療を行ったが、今後は、自宅での治療を継続するよう指示した。本年、5月現在も、極めて体調は良好で、サナモア光線治療を継続すると話している。



治  
験  
例  
報  
告

## 全身に広がる乾癬を

## サナモアで治療

目黒区 サナモア光線治療院

東原 なつ子氏報告

TEL〇三・五七五九・三七〇

症例 70歳 男性

症状 平成12年春頃から、頭皮

の痒みが気になり、皮膚科を受

診。その後、上肢、下肢、背部

と広範囲にわたり、隆起性の紅

斑を認めたため、皮膚科を再度

受診したところ、乾癬と診断さ

れた。そこでは、ステロイド軟

膏やビタミンD含有軟膏を処方

されたため、使用し様子を見る

も、改善せず、乾癬に効果があ

ると言われる温泉にも何度か通っ

たが、効果は一過性であった。

その頃、知人からサナモア光線

療法を紹介され、来院した。

療法経過 治療は五台の治療器

を使用。側臥位にて、腹部(B

お医者さんにかかったことのない私に、市役所から、「長寿健康診断通知書」という書類が届いたため、近くの診療所を受診することにしました。そこで、血液検査を含め、いくつかの検査を行いました。一週間後に検査結果を聞きに行ったところ、CEAという腫瘍マーカー

(BD)、膝(AB)、足裏(AB)を40分間全身照射。治療は、週に

体  
験  
例  
報  
告

## サナモアでCEA(腫瘍マーカー)が

## 正常値となった

西宮市 石井 藍子氏報告

一、二回のペースで開始。徐々に皮膚の状態は良くなり、15回治療終了頃には、紅斑は、かなり目立たなくなる。現在は、自宅での治療を主体とし、月に一、二回当院を受診されているが、体調により一過性に乾癬の悪化を認めるものの、比較的落ち着いていた状態で推移している。

が9.0(正常5.0以下)と高く、消化器を中心に、体のどこかに癌ができている可能性があるため、大きな病院で、精密検査を受けるようにと説明されました。

その時、私の頭の中には、家に帰ってサナモアを照射しようといった考えが浮かんだため、

サナモアカーボンの  
類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所

医師には、ちよつと用事があり、急には無理なので、また、改めてお願いしますと、だけ言い残して、診療所を出ました。

家に着くと、私は、早速、腹部を中心に、BDカーボンの組み合わせて、30分以上、連日照射を行いました。一週間後に、その診療所に向き、再度、血

液検査を受けたところ、CEAは3.4まで低下していて、精密検査は行わず、様子を見ることになりました。

その後もサナモア光線治療は続けていますが、サナモア治療器が、我が家に来て、六十余年、日々、元気に暮らしています。



# サナモア 光線療法 愛用者の声

二十七年間サナモアを  
信じて使い続けています

山口県 徳永 満代様

昨日は、早速にカーボンを手配して頂き、ありがとうございますました。

古くからの友人のご主人で、剣道、居合道などの先生をしておられ、全国を飛び回られていた方が、突然、血糖値の上昇を指摘されました。これまで、自身の健康を過信していたこともあり、大変、驚かれ、食事療法を開始するとともに、サナモア光線療法を並行して行ったところ、二か月後には、血糖値も下がり、元氣を取り戻され、喜び合いました。

また、主人の弟も、昨年、胃癌を患い、大手術を受けました。この時ばかりは、体調がすぐれず、顔色もどす黒く、心配していました。しかし、しっかりとサナモアを照射し、手術にのぞみ、今では、嘘のように健康を回復し、お友達と旅行を楽しんでいます。私自身も、二十七年の間、サナモアを信じて使い続けて、79歳になりましたが、お医者さんいらずで、元氣な毎日を送っており、心からサナモアに感謝しております。

サナモアで歯茎の

炎症が治り驚いています

品川区 倉本 薫子様

歯茎が痛み、水もしみるようになったため、歯科医院を受診し、レントゲン検査を受けたところ、歯茎に炎症が起きているとのこと。抗生剤と消炎鎮痛剤を処方されました。二週間ほど内服を続けましたが、痛みはとれず、抜歯の可能性もあったため、それから、毎晩、サナモアを行うことにしました。A Bカーボンの組み合わせで、歯茎に20分以上、腹部、腰部、膝、

足裏に各5分の照射を続けたり、ころ、数日して、嘘のように、歯茎の痛みは消え、水もしみなくなりしました。今まで、歯茎にサナモアを照射した経験がなかったため、この効果には大変驚かされました。

私は、八十四歳になりましたが、今も、元氣に、家事、水泳、旅行など行い、ほとんど、毎日外出しています。私の周りのサナモアを続けている友人は、皆元氣に毎日を過ごしています。

## サナモア体験記募集

サナモア光線協会では、皆様からの体験記を募集しております。なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

サナモア体験記の投稿について、メールでの募集も開始いたしました。下記のアドレスまで、お気軽にご投稿をお願い申し上げます。

メールアドレス：sanamore@hr.catv.ne.jp



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、

一、季刊紙、「健康と光線」の発行

二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。

また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八二  
三七二二―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)